

金沢に行ってきました



## 日本獣医師会・獣医学術学会・年次大会の市民公開シンポジウム

2017年2月24～26日までの三日間、石川県金沢市で日本獣医師会の学会が開催され、市民公開シンポジウム「学校動物飼育支援の期待と課題」が開催されました。栃木県獣医師会の学校飼育動物委員会として参加してきました。

### 基調講演：学習指導要領改訂の方向性と学校動物飼育への期待

文部科学省初等中等教育局教育課程課課長補佐、(併) 学校教育管・道徳教育調査官・伝統文化教育調査官 小野賢志先生

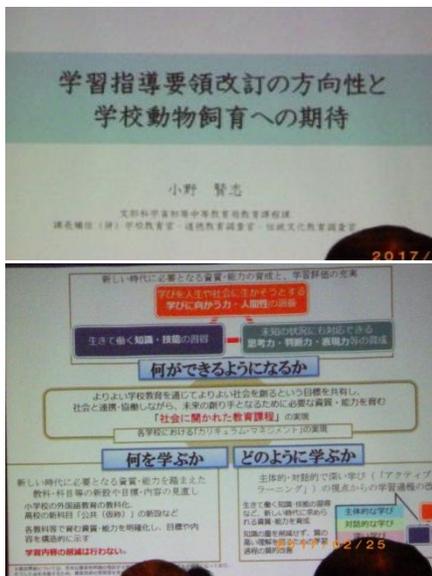
概ね10年に一度改定が行われてきた学習指導要領に対して、平成28年12月21日、中央教育審議会は次期学習指導要領改訂に関する答申（「幼稚園小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の指導要領等の改善及び必要な方策等について」）を行った。

答申では、グローバル化の進展、人工知能（AI）の飛躍的な進化など、加速度的に変化して将来の予測が難しくなっている時代を生きる子供たちが、主体的に向き合い、関わりあい、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるよう、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むことを目指すとされている。

「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」という「生きる力」を育てることは一層重要で、さらに、各教科を学ぶことを通じてどのような力を身につけるかを、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」の柱にそって、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を「主体的・対話的で深い学び」（いわゆるアクティブ・ラーニングの視点）に基づき授業の改善の必要があるとしている。

そのためにカリキュラム・マネジメントの確立が重要で、教科横断的な視点で、必要な教育の内容を組織的に配列していくこと、改善のためのPDCAサイクルを確立すること、その実現のために必要な人的・物的資源を、地域等の外部の資源を含めて活用して組み合わせることが大切であるとしている。

小学校では平成30年度から「特別の教科 道徳」が実施されるが、道徳教育の根底にある「生命の尊重や感謝」や「生命について」「生命の偶然性・有限性」などを身をもって学ぶことができる学校動物飼育や植物栽培は、改めてその意義が具体的に言及されている。



スライド詳細は [ココ](#) からリンク



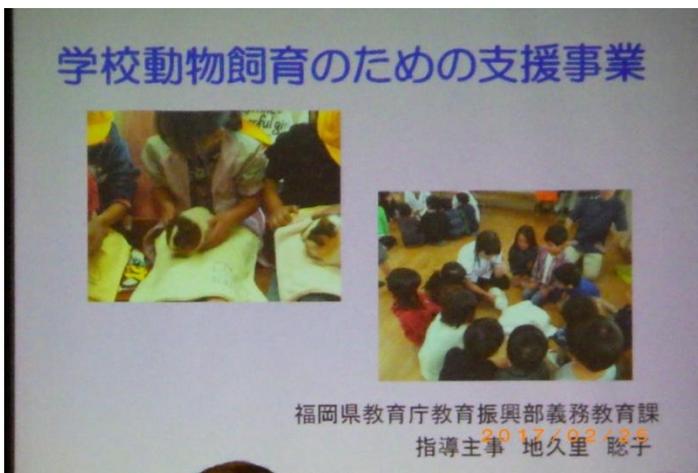
### 学校動物飼育のための支援事業

福岡県教育庁教育振興部義務教育課指導主事 地久理聡子先生

福岡県では、平成16年に「学校における望ましい動物飼育の在り方」に関する研究会が発足し、平成17年から平成24年までの間、「学校における望ましい動物飼育」に関する研修が実施されていた。平成25年には、県教育関係部署や市町村教育長、獣医師会獣医師を構成員とした「学校動物飼育支援協議会」の開催および県内小学校でのふれあい授業・体験が実施された。

これまでの一連の経過の中から、「実際に動物に触れる機会」や「命の大切さを実感する機会」が減少していること、獣医師会による飼育相談や学校訪問の実施に地域間格差が生じていることや管理職や教員の動物飼育に関する知識が不十分なことによる飼育動物の効果的な活用ができていないことが課題として見出された。

これらの課題を解消するためには、学校における動物飼育の方法を知り、衛生に関する不安を解消して飼育が適切になされる環境を整え、動物飼育を通して教科等の指導を充実させ、児童の豊かな心を育成することを目的として、「学校動物飼育のための支援事業」を三カ年事業として取り組んだ。



**学校動物飼育支援におけるこれまでの取組**

- 「学校における望ましい動物飼育の在り方」に関する研修会 (H16)
- 「学校における望ましい動物飼育」に関する研修の実施 (H17~24)
- 学校動物飼育支援協議会の開催及びふれあい授業・体験の実施 (H25)

福岡県獣医師会と連携した取組

**【課題】**

- 動物飼育校数の減少や小動物飼育校数の割合の低下により、実際に動物にふれる機会が減り、子供たちの「命の大切さ」を実感する機会も減少している。
- 獣医師会との連携による飼育相談や学校訪問等の実施に地域間格差が生じている。
- 管理職や教員の動物飼育に関する専門的な知識（ふれあい方、生態、衛生面等）が不十分なため、飼育動物を教材として効果的に活用できない。

**本県の課題及び本事業の目的**

- 動物飼育校数の減少や小動物飼育校数の割合の低下により、実際に動物にふれる機会が減り、子供たちの「命の大切さ」を実感する機会も減少している。
- 獣医師会との連携による飼育相談や学校訪問等の実施に地域間格差が生じている。
- 管理職や教員の動物飼育に関する専門的な知識（ふれあい方、生態、衛生面等）が不十分なため、飼育動物を教材として効果的に活用できない。

↓

- 学校における動物飼育の方法や衛生面に対する不安を解消し、飼育が適切に実施できるよう飼育環境を整える
- 飼育動物を活用した教科等の指導の充実を図り、児童の豊かな心を育成する

「学校動物飼育のための支援事業」は、1) 動物飼育相談体制の整備、2) 飼育動物活用のための教員研修、3) 動物飼育促進のための管理職研修の三つの柱として取り組んだ。

1) 動物飼育相談体制の整備は、電話相談と訪問指導を行った。2) 飼育動物活用のための教員研修は、公開授業を実施する研修と公開授業を実施せずに動物とのふれあい体験を実施する研修の二種類を準備し、それぞれの地域の状況に合わせて研修形態を決定して実施した。3) 動物飼育促進のための管理職研修は、新任の小学校校長と新任の小学校教頭を対象として実施した。

26 > 27 > 28

**1 動物飼育相談体制の整備**

(1) 電話相談  
学校 → 獣医師

(2) 訪問指導  
学校 → 申請 → 市町村教育委員会 → 通知・派遣 → 獣医師会

**2 飼育動物活用のための教員研修**  
平成26年度 21市町(22校)  
平成27年度 13市町(13校)

**3 動物飼育促進のための管理職研修** 17・02・09  
新任校(長)研修及び新任教頭研修において実施

**(2) 飼育動物活用のための教員研修**

**【授業を実施する形態での研修実践例】**

- 1 公開授業
  - ・ 教科等の指導に飼育動物を活用する方法等を学ぶ。
- 2 協議
  - ・ 授業自評を基に、飼育動物を活用した授業の在り方について意見交流をする。
- 3 講話
  - ・ 動物飼育の意義や学校動物飼育の課題の解決方法について学ぶ。
- 4 まとめ
  - ・ 研修の成果と今後の取組について確認する。

**(2) 飼育動物活用のための教員研修**

**【授業を実施しない形態での研修実践例】**

- 1 獣医師による講話
  - ・ 動物の生態、飼育方法等について学ぶ。
- 2 ふれあい体験
  - ・ 動物とのふれあいを通して、温かさや柔らかさ、心音を感じ取り、命を実感する。
- 3 協議
  - ・ 動物の授業への活用や飼育方法についての課題を出し合い、改善策を考える。
- 4 まとめ
  - ・ 授業における飼育動物の活用について確認する。

2) 飼育動物活用のための教員研修は、平成26年度は21市町22校で実施した。市町立小学校から1名参加してもらい、研修終了後は本校で研修内容の報告、説明、実践をしてもらうことで普及、啓発を図った。当初は単年度事業として計画したが、好評であったため平成27年度13市町13校で実施した。公開授業を実施する教員研修では、第一学年の生活科（単元名「げんきにそだて」）で実際にうさぎとふれあい、親しみを持ち、命を暖かさや心臓の鼓動から感じ、命あるものを大切にすることができることを目的とした授業を公開した。

この事業を通していくつかの成果を得られたが、いくつかの課題も見つかった。

- 飼育動物がない学校に対して、児童が動物と関わるができる支援が必要である
- 飼育動物を活用した授業の実施に当たっては、動物アレルギー等の対応について周知しておく必要がある